



INVESTOR RELATIONS デリカレポート

DELICA REPORT 23

第23期 事業報告書

2025年4月1日 - 2026年3月31日



デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

東証スタンダード 証券コード 3392

TOP MESSAGE



戦略的投資などが結実し、
未来の成長に向け計画を推進

代表取締役社長

大崎 善保

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。今回もこのようにご報告ができましたのは、ひとえに株主の皆様のご理解とご支援の賜物と重ねて御礼申し上げます。

当連結会計年度（2025年4月1日～2026年3月31日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善などにより、緩やかな回復傾向を続けました。一方で、海外における政治経済情勢の不透明感や地政学的リスクの長期化に加え、国内でも物価高や円安基調の継続、個人消費の伸び悩みなど、景気の先行きは依然として不透明な状況です。

こうした中、当社は青果物加工流通分野において野菜の価値を追求し、未来に向けた「持続可能な農業」と「食を通じた健康

増進」を実現する付加価値創造企業として、社会課題の解決と企業の成長を同時に追求してまいりました。特に、「第五次中期経営計画 keep on trying 2027」の基本方針である「各種ポートフォリオの変革」「青果物サプライチェーンの構造変革」「研究部門・開発部門への投資拡大」に基づき、数々の具体的な施策を推進しております。

売上面では、外食需要の堅調な推移や省力化ニーズの高まりを的確に捉え、引き続き着実に売上を伸ばしました。青果物流通事業を担うデリカフーズ㈱においては、取引業種バランスの最適化を継続的に図りながら、新たな取引先ニーズへの積極的な対応を進めました。また、消費者向けミールキットを手掛ける楽彩㈱を中心にBtoC事業の拡充を推し進めるとともに、物流部門を

売上高は62,219百万円となり、4年連続で過去最高を更新。外食需要と省力化ニーズを的確に捉えたほか、調達面や現場オペレーションの見直しと改善を図り、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益も過去最高を更新しました。

当連結会計年度の業績

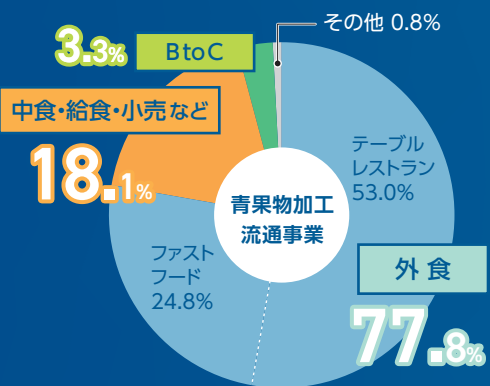
売上高 62,219 百万円
(前期比5.9%増)

営業利益 2,109 百万円

経常利益 2,172 百万円

親会社株主に帰属する
当期純利益 1,515 百万円

業態別販売構成比



担うエフエスロジスティックス㈱においても、新規開拓によるグループ外売上の拡大に努めました。この結果、当連結会計年度における売上高は62,219百万円（前期比5.9%増）となり、4年連続で過去最高を更新いたしました。

損益面についても、増収に伴い堅調な推移を続けました。青果物事業では、猛暑を背景とする価格高騰の影響があったものの、今年度から始まった本部集中仕入制度の奏功や、調達コスト・在庫の厳格管理、廃棄ロスの削減推進、人員配置・物流の最適化などにより、青果物の市況変動に適切に対応いたしました。以上の結果、当連結会計年度の営業利益は2,109百万円（前期比161.9%増）、経常利益は2,172百万円（前期比145.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,515百万円（前期比179.6%

増）となり、いずれも過去最高を更新いたしました。

この成長軌道をより確固たるものとするため、中期経営計画の最終年度となる次期においても、既存事業の収益力強化と成長分野への投資を加速させてまいります。また、気候変動が収益に与える影響を抑制するべく、本部集中仕入制度や仕入・在庫の厳格管理体制の定着に加え、貯蔵機能の強化など調達面の強化を進めることで、仕入コストの安定的なコントロールを実現いたします。

株主の皆様におかれましては、引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

keep on trying 2027

～未来に向けてなんでもやってみよう！～

「第五次中期経営計画 keep on trying 2027」では、3つの基本方針「各種ポートフォリオの変革」「青果物サプライチェーンの構造変革」「研究部門・開発部門への投資拡大」のもと、デリカフーズグループ各社でさまざまな取り組みを実施してまいりました。

3つの基本方針（事業戦略）

01
各種
ポートフォリオ
の変革
→ P.4

02
青果物
サプライチェーンの
構造変革
→ P.5

03
研究部門・
開発部門
への投資拡大
→ P.6

前倒しで 達成いたしました！

2025年3月期〈実績〉

売上高 — **587** 億円
経常利益 — **8.8** 億円
営業利益 — **8.0** 億円

2026年3月期〈実績〉

売上高 — **622** 億円
経常利益 — **21.7** 億円
営業利益 — **21.0** 億円

2027年3月期〈目標〉

	【修正前】	【今回修正計画】
売上高	600 億円	670 億円
経常利益	18.0 億円	25.5 億円
営業利益		24.0 億円

POINT

- ・大阪FSセンター立ち上げ完了
- ・商品ラインナップの拡充
- ・物流部門の外販拡大
- ・記録的猛暑で仕入価格が高騰

POINT

- ・グループ総合力で売上が拡大
- ・粗利率の改善で大幅増益
- ・本部集中仕入制度の開始
- ・農業分野への参入

2027年3月期〈目標〉の上方修正の理由

2026年3月期は、売上高が着実に増加し、利益面においても、青果物の市況変動に柔軟に対応しながら収益体質の強化に取り組み、過去最高益を達成しました。結果として、第五次中期経営計画の最終年度業績目標は1年前倒し達成となったため、2027年3月期計画を上方修正いたしました。

01 各種ポートフォリオの変革



「各種ポートフォリオの変革」では、経営基盤の安定化と収益性の向上を図るため、物流事業を強化するとともに、冷凍野菜、冷凍加工品、ミールキット、調味料など加工度の高い商品の開発・販売により、付加価値を生み出す提案に注力いたしました。

事業ポートフォリオ

物流事業の強化



全国のFSセンターを結ぶ幹線便と、外食店舗などへ届けるラストワンマイルの配送網を有し、グループの物流機能を担うエフエスロジスティクス株式会社の事業を強化しました。

2026年3月期現在では、車両160台、配送員260名を超える体制となっており、既存取引先における共同配送や新規取引のニーズにも積極的に対応しています。今後はグループ外売上への拡大に注力し、車両の積載効率向上と収益性の改善を同時に実現させることで、事業をさらに成長させてまいります。

商品ポートフォリオ

食品事業部の新設



成長性・収益性の高い「新規領域への展開」を加速させるため、2024年4月、デリカフーズ株式会社に食品事業部を新設しました。当事業部では、国産野菜やフルーツの冷凍食品をはじめ、「和田さんのごぼうの素揚げ」などの冷凍加工品、野菜の残渣を活用したベジブロードなどのサステナブル商品を取り扱っています。

自社のみではなく、それぞれの商品加工に適した協力会社と共同で、素材を生かした食品の開発・製造・販売を行い、デリカフーズブランドや企業価値の向上を目指してまいります。

02 青果物サプライチェーンの構造変革



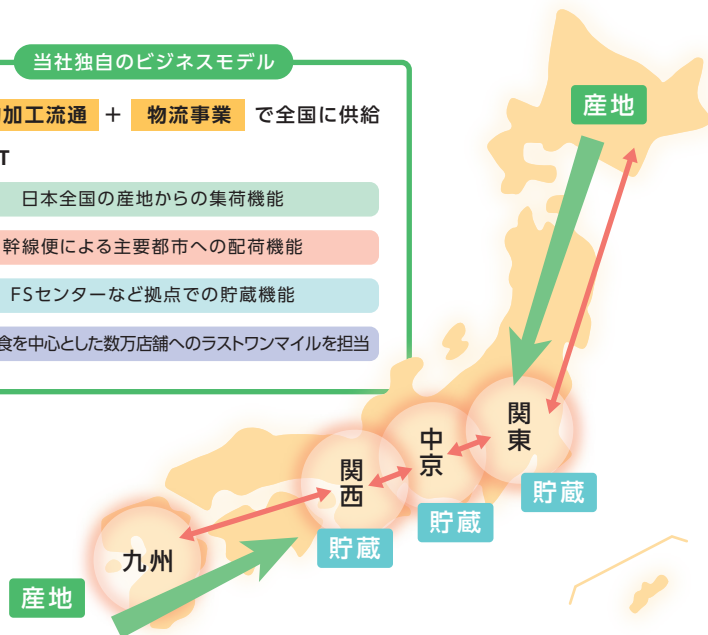
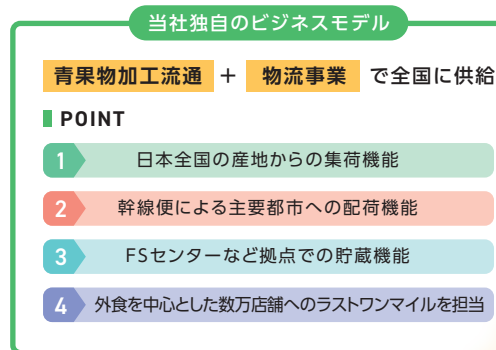
材料の調達リスクや物流難など、事業環境の変化に柔軟に対応できるよう、青果物流通インフラの再構築を推進しました。持続可能かつ機能的なサプライチェーンを確立し、将来にわたる安定供給体制の基盤を築いてまいります。

01 FSセンターを強みに全国をつなぐ

FS (Fresh&Speedyの略) センターは、コールドチェーンで仕入から加工・物流までワンストップで対応するデリカフーズ独自のモデルです。2024年4月の大阪FSセンター稼働をもって、主要都市への設置が完了。オートメーションピッキングや大型貯蔵庫による

安定供給を強みに、日本各地のお客様へおいしい商品を早くお届けするためのネットワークを確立しています。

青果物加工流通と物流事業の融合は当社独自のビジネスモデルであり、今後、一層の進化を図ってまいります。



02 本部集中仕入制度の開始

調達コストの安定的なコントロールを目的に、2025年6月より本部集中仕入制度を開始しました。従来は各事業所の購買担当者が青果物の仕入量を決定していましたが、商品の供給体制を最適化する観点から、取扱量の多いレタス、キャベツ、トマトなど主要品目の契約・発注業務をデリカフーズ商品統括本部が担当する体制に変更いたしました。

03 玉ねぎ加工専用工場（茨木工場）の稼働

2025年4月、デリカフーズ大阪事業所（茨木工場）を玉ねぎ加工専用工場としてリニューアルしました。単一原料に特化し、工程を自動化・省人化することで、生産効率の向上と原価低減を図ります。また、全工程を5℃帯で管理し、品質管理の難しい玉ねぎ製品の消費期限延長を実現します。

03 研究部門・開発部門への投資拡大



研究部門・開発部門では、野菜の栄養素分析や青果の安定供給につながる保存技術の研究を推進しました。生産者との連携強化のため農業事業にも参入し、研究開発と生産現場の両面から、野菜の価値向上と消費拡大を目指しています。

▶ デザイナーフーズによる長期保存技術研究の推進

デザイナーフーズ株式会社では、青果物事業で収益インパクトの大きいトマトとレタス類を対象に保存技術の研究を推進しました。パターン検証から各野菜に最適な貯蔵環境を割り出し、従来の冷蔵環境に比べて約2～4倍の鮮度保持期間の延長を実現。この技術を応用することで、「安定供給網の確立」や「廃棄ロスの削減」への貢献を目指しています。



▶ デリカファームの設立

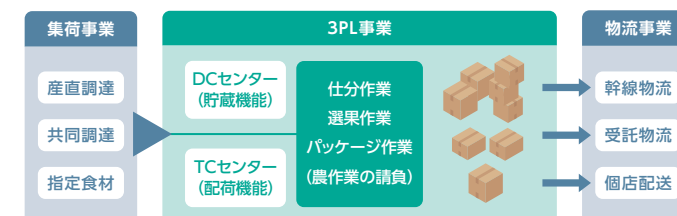
2025年7月、農業法人 デリカファーム株式会社を設立し、9月からは熊本県玉名市の農場で赤系トマトや種なしピーマンの栽培に取り組んでいます。自らが農業に参入し、実態を学びながら業務加工用野菜の普及と、既存事業の枠を超えた生産者との共栄策を見出し、持続可能な農業を目指します。



NEXT STAGE!

エフエスロジスティックス 東海マザーセンターが稼働

2026年4月、愛知県にグループ初の集出荷貯蔵施設である東海マザーセンターを開設しました。高機能貯蔵庫により、青果物の保存期間を最長30日まで延長し、気候変動による価格変動リスクを低減します。また、グループ外の荷物を扱う3PL事業を展開することで、「貯蔵による青果物の安定供給」と「物流事業の拡大」の両立を実現します。



▲ 東海マザーセンター事業イメージ

第六次中期経営計画を策定中！

次期中期経営計画は2027年3月期中に発表を予定しております。

NEWS
2026
3月

デリカフーズホールディングス株式会社



株主様向け工場見学会開催のご報告

株主の皆様にご理解を深めていただくため、デリカフーズ東京FSセンターにて工場見学会を開催いたしました。当日は21名の株主様にご参加いただき、通常はお見せする機会のない工場内をご見学いただいたほか、ミールキットなどの試食会も行いました。皆様から事業内容や品質管理について多くの熱心なご質問をいただき、非常に活気ある交流の場となりました。今後も株主の皆様にご理解と信頼を深めていただけるよう、このような取り組みを継続的に実施してまいります。

NEWS
2026
4月

デリカフーズ株式会社



「長崎ファクトリー」として デリカフーズ株式会社へ合流

コロナ禍のなか、グループの事業多角化を支えたミールキットのセットアップや、たれ・ソースなどの製造・販売拠点としてスタートしたデリカフーズ長崎株式会社は、さらなる成長を目指してデリカフーズ株式会社と合併し、「デリカフーズ株式会社 長崎ファクトリー」として新たなスタートを切りました。今後は営業や商品開発など、他部門との連携を強化することでグループシナジーを最大限に発揮し、市場環境の変化に柔軟に対応できる体制の構築を進めてまいります。

DELICA FOODS HOLDINGS



デリカフーズ

外食・中食産業向けを中心に青果およびカット野菜などを製造・販売しています。独自の青果物加工流通インフラを構築し、全国の産地から調達した青果物を、国内約30,000店舗へお届けしています。



デザイナーフーズ

「選食力」＝「栄養力」＝「健康力」と位置づけ、食についてのコンサルティングや「野菜を中身で評価する」という考えにもとづいた機能性研究・鮮度保持技術開発などを行っています。



エフエスロジスティックス

トラック160台以上とドライバー260名体制でグループの物流を支え、拠点間の幹線便や共同配送のほか、365日対応のチルド配送網を活かしてグループ外の顧客向けの外販事業も拡大しています。



楽 彩

「楽しく、楽しく、食卓を彩る。」をコンセプトに、コンシューマー向け自社ECサイトの運営やミールキットの開発・販売を行い、他企業のニーズに合わせたOEM商品の提案・販売なども展開しています。



デリカファーム

グループ初の農業法人として2025年に設立されました。熊本農場で業務用野菜の生産を開始し、持続可能な農業の実現に向けて、グループの未来を切り拓く新たな一歩を踏み出しています。

統合報告書について

すべてのステークホルダーの皆様にご理解と信頼を深めていただくため、財務・非財務情報を掲載した統合報告書を発行しています。



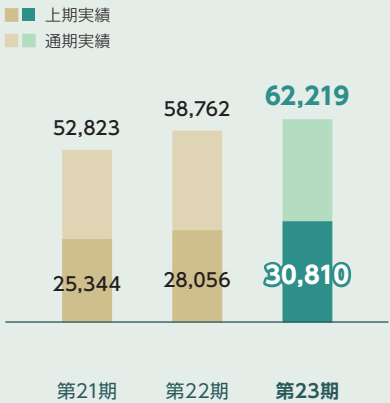
最新の統合報告書は
当社コーポレートサイト内
「IR資料室」にてご覧いただけます！
<https://www.delica.co.jp/ir/>

>>>

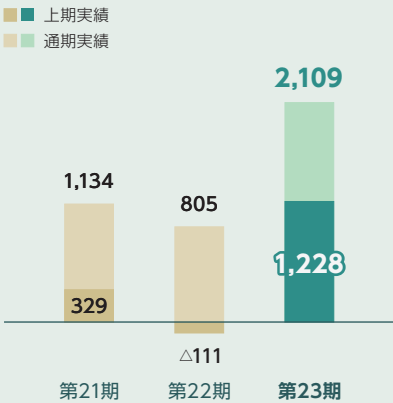


連結財務ハイライト [2025.4.1 – 2026.3.31]

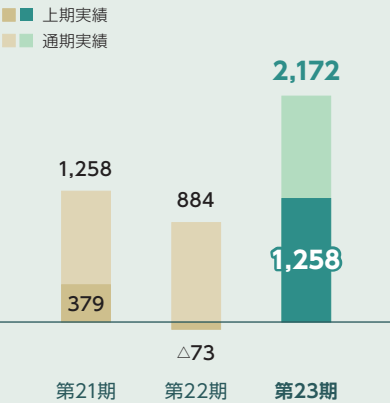
売上高（単位：百万円）



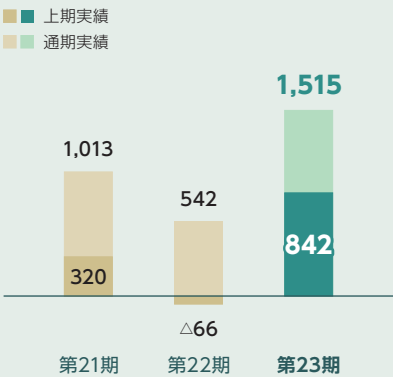
営業利益（単位：百万円）



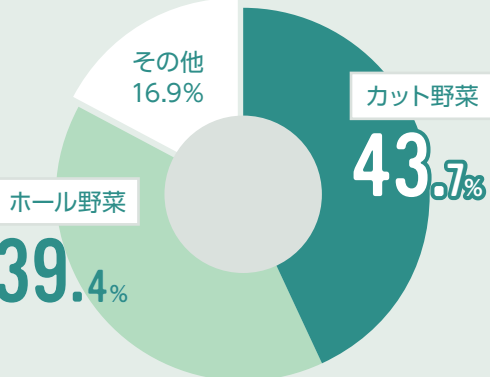
経常利益（単位：百万円）



親会社株主に帰属する当期純利益（単位：百万円）



部門別 販売構成比



IRサイトのご案内

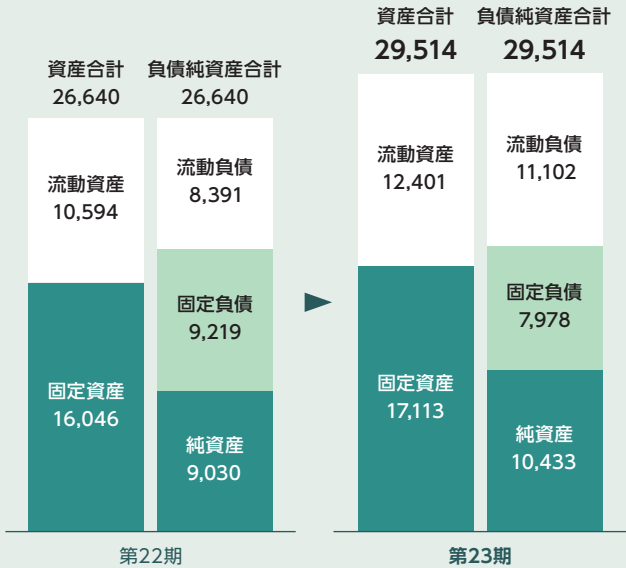
その他の財務関連データにつきましては当社ホームページ「IR情報」をご覧ください。



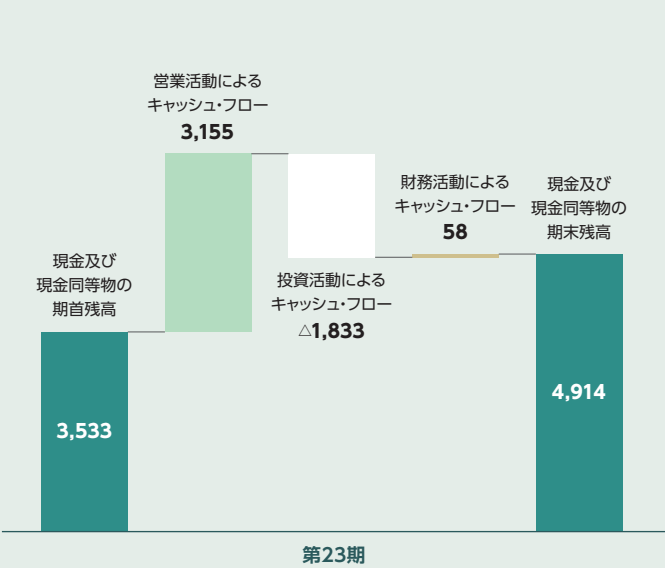
デリカフーズ IR

<https://www.delica.co.jp/ir/>

要約連結貸借対照表（単位：百万円）



要約連結キャッシュ・フロー計算書（単位：百万円）

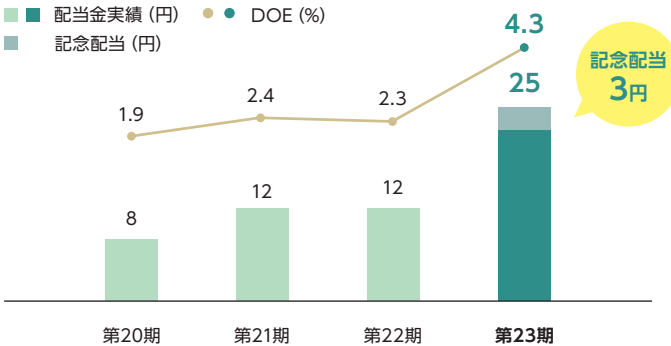


株主還元・配当について

当期は、1株当たり22円（期初予想15円から7円増配）の普通配当に加え、第五次中期経営計画における最終年度の定量目標を1年前倒しで達成したことを踏まえ、3円の記念配当を実施し、1株当たり25円の配当といたします。今後とも、変わらぬご愛顧とご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

※DOE（株主資本配当率）＝ 配当額／株主資本

1株当たりの年間配当金とDOE



記念配当
3円

会社概要

2026年3月31日現在

商号	デリカフーズホールディングス株式会社		
英文社名	DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.		
設立	平成15年4月1日		
創業	昭和54年10月6日		
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号		
資本金	1,772,363千円		
従業員数（連結）	850名（他、平均臨時雇用者数2,429名）		

役員			
代表取締役社長	大崎 善保	社外取締役	尾崎 弘之
取締役会長	舘本 勲武	社外取締役	柴田 美鈴
取締役	小林 憲司	社外取締役	高力 美由紀
取締役	仲山 紘之	常勤監査役	田井中 俊行
取締役	市野 真理子	社外監査役	森田 雅也
		社外監査役	三島 宏太

会計監査人 南青山監査法人

株式状況

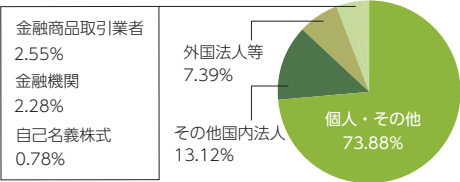
2026年3月31日現在

発行済株式総数 [所有者別株式分布]

16,372,000株

株主総数

12,141名



大株主 ※持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
舘本 篤志	2,038,900	12.55
エア・ウォーター株式会社	1,719,400	10.59
舘本 勲武	964,700	5.94
大崎 善保	370,948	2.28
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	320,300	1.97
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	251,200	1.55
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	231,749	1.43
株式会社オリエンタル	200,000	1.23
デリカフーズグループ従業員持株会	190,100	1.17
野村 五郎	189,800	1.17

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL.0120-232-711（通話料無料） 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所（証券コード3392）
公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <https://www.delica.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- 【ご注意】
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構（証券会社等）で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.
〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



IR最新情報は
ホームページを
ご覧ください。

デリカフーズ  <https://www.delica.co.jp/>
【お問い合わせ】 TEL 03(3858)1037 FAX 03(5851)1056



non VOC
ink
UV

UD FONT

本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、UVエコインキを使用しています。
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。